



酒井 邦雄教授

酒井邦雄名誉教授退職記念号に寄せて

酒井邦雄先生は、2020年3月本学経済学部を退職されました。ここに長年のご功績を讃えるとともに、記念号を発刊し、先生に捧げたいと思います。

酒井名誉教授は、昭和46年3月に中央大学商学部を卒業され、昭和52年同大学大学院経済学研究科経済学専攻博士後期課程を単位取得満期退学されました。同年4月に愛知学院大学商学部専任講師に着任後、昭和56年11月に助教授、平成3年5月に教授に昇進され、平成30年4月に経済学部客員教授に就任されました。この間、商学部教務主任、商学部長、大学院商学研究科長、産業研究所長およびキャリアセンター部長などの要職に就かれました。さらに、本年4月には名誉教授に就任されております。

校内教育においては、経済学分野の基幹科目である「経済政策論」を長年にわたって担当され、その簡明で分かりやすい授業は、編著『経済政策論入門』（成文堂、2011年）に集約されています。ここでは、経済政策論は政策目的、政策手段および価値判断といった「原理論」を学ぶことが第一義である、と提唱されています。

研究面においては、社会主義経済の資源配分問題について数理計画論を援用してモデル分析を行い、さらにこの研究成果はソ連経済における生産、技術進歩、制度といった側面から、ソ連の経済成長理論へと転移・発展されました。この業績は単著『ソ連の経済成長と技術進歩』（成文堂、2000年）として集成され、同書によって博士（経済学）の学位を取得されるとともに、学会でも高く評価されています。また、ソ連崩壊以降においても、ロシア経済の資本主義移行プロセスの実態と弊害について多年にわたって研究しており、さらに近年では、経済活動を取り巻く諸制度、技術進歩および産業政策が、国や地域の経済成長、所得分配などに影響を与えることを理論的・実証的に探究され、独自の「制度の経済学」の構築を模索されています。

平成26年の名城公園キャンパス移転後は、前年度より新設された経済学部の重鎮として、私ども経済学部教員も多くのご指導を賜りました。伺うところによると、退職後には生地の静岡県に研究室を設け、さらなる研鑽に励んでおられるとのことで、その活力には脱帽せざるを得ません。

酒井名誉教授におかれては、愛知学院大学に対する貢献には感謝の念に堪えません。お身体を大切にしたいうえで、われわれに対する叱咤激励を頂戴できれば、幸甚の限りであります。

令和2年12月

愛知学院大学経済学会 会長 宮 原 正 人